

「産業、なりわい」を守る砂防事業（地域の観光産業）



- 昭和30年代まで、白馬村は度々土石流や土砂・洪水氾濫による被害を受けていた。
その後、国・県の連携した砂防事業により地域の安全度が向上し、集落や観光施設の立地が進む等、土地利用が高度化。
- 現在は年間約290万人※が訪れる四季の自然を活かした国際的な山岳リゾート地となっている。 ※出典：白馬村HP（令和7年）
砂防事業が、白馬村の「なりわい」である観光を支えるとともに、住民の安全・安心な暮らしを守り続けている。



昭和34年（1959年）9月松川災害の被災状況



白馬村誌より引用

砂防事業による保全（白馬村 黒豆沢）



- ・ 宿泊・別荘・飲食の集積が進み、スキー・登山・温泉と結びつく観光関連産業が地域経済を支える。
- ・ 砂防による安全確保が投資・雇用・人材定着を後押しし、観光の継続・発展と「持続可能な観光まちづくり」を支える。

※本資料は国土交通省松本砂防事務所と長野県で共同で作成したものです。

ウィンタースポーツ・山岳観光



- ・ 北アルプスの景観・良質な雪・温泉を基盤に、スキーをはじめ四季型観光が定着している。
- ・ 1998年冬季五輪会場、令和7年UNWTO「ベスト・ツーリズム・ビレッジ」選出